

学びの主体は子ども！

～問題解決的な学習のポイントと具体例～

香川県高松市立川添小学校教諭 なかすじ おさむ 中筋 修

社会科における主体的な姿とは？

「主体」と聞いて、どんなことを想像しますか。私は、現行の学習指導要領のキーワードでもある「主体的・対話的で深い学び」や、「主体的に学習に取り組む態度」が思い浮かびます。

では、特に社会科において、主体的な姿とはどのように描かれているのでしょうか。まずは『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』（以下『解説』）を手がかりに、大枠を整理してみます。

主体的な学びの実現については、児童が**社会的事象から学習問題を見だし**、その解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、学習対象に対する**関心を高め問題意識をもつ**ようにするとともに、**予想したり学習計画を立てたりして**、追究・解決方法を検討すること、また、学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり**新たな問いを見いだしたり**すること（中略）が必要である。【『解説』 p.136 から引用。太字は筆者】

社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとは、学習問題を追究・解決するために、社会的事象について**意欲的に調べ**、社会的事象の特色や相互の関連、意味について**粘り強く(多角的に)考え**、調べたことや考えたことを**表現しようとする**主体的な学習態度を養うようにすることである。

よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとは、これまでの学習を振り返り、学習したことを確認するとともに、学習成果を基に**生活の在り方やこれからの地域社会(国家及び社会)の発展について考えようとする**態度を養うようにすることである。

【『解説』各学年の目標(3)の解説から引用。() および太字は筆者】

子どもたちが主体的になるために、まず求められるのは、**社会的事象から学習問題を見だし、学習への動機付けや方向付けを得ること**だといえます。また、それを追究・解決するために、社会的事象について調べたり、考えたり、表現したりする活動も欠かせません。さらに、「社会に開かれた教育課程」ともいわれるように、学びを実際の社会生活に生かす、というゴールイメージも大切です。

以上から、子ども主体の社会科を実現するためには、いわゆる「**問題解決的な学習**」を充実させることが重要だといえます。

学習過程ごとのポイントや具体例

ここからは、問題解決的な学習のさまざまな過程で、どのようなポイント（**ポ**）や具体例（**例**）が考えられるかを、私なりにまとめます。なお、他の実践に応用しやすいよう、一つの実践を通じて紹介するというよりも、ポイントごとに細分化して整理する形をとっています（主には第5学年の「食料

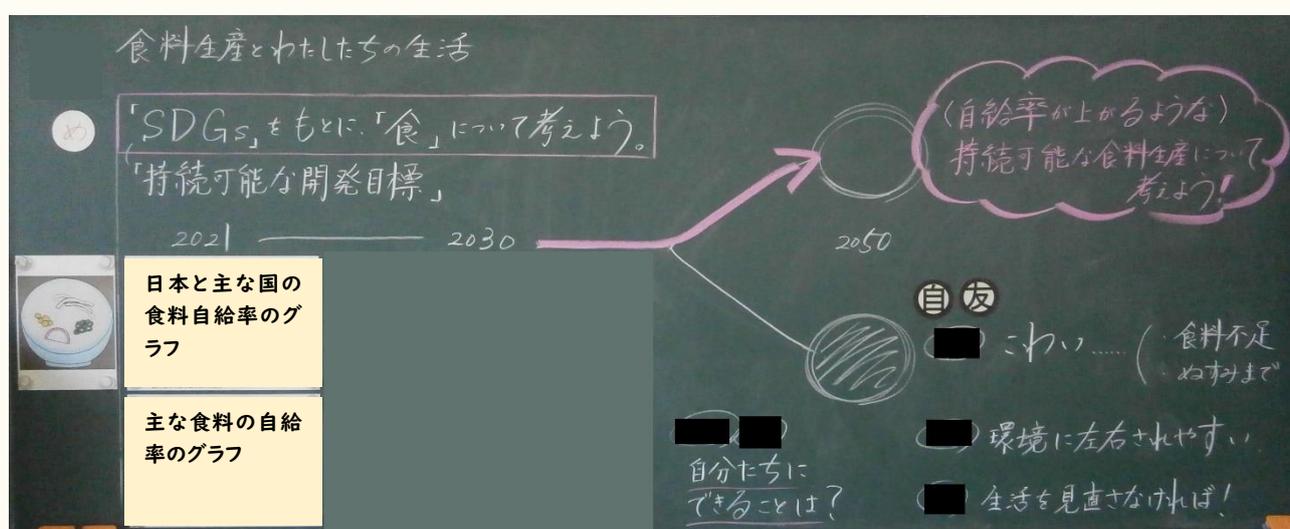
生産」単元を具体例としてありますので、その全体像を追っていただくことも可能です)。

(I) 問いを見いだす過程

① 「身近さ」をまず大切にする

① 子どもたちにとって学びが身近であるほど、その意欲や取り組みやすさは高まります。そして、社会科は現実の社会的事象を扱う教科であり、身近な内容や教材を求めやすいことが魅力といえます。昨今であれば、SDGs など「**現代的な諸課題**」に対応している事象も多く見つけられるでしょう。

② 【5年・食料生産】スピーチ活動でSDGsについて触れた子をきっかけに、食の持続可能性について動画を視聴するとともに、もし日本の食料自給だけで地元の名物「讃岐うどん」を作るとどうなるかを提示し、身近な食に潜む課題を捉えました。



② 心が動く事象との出会いを描く

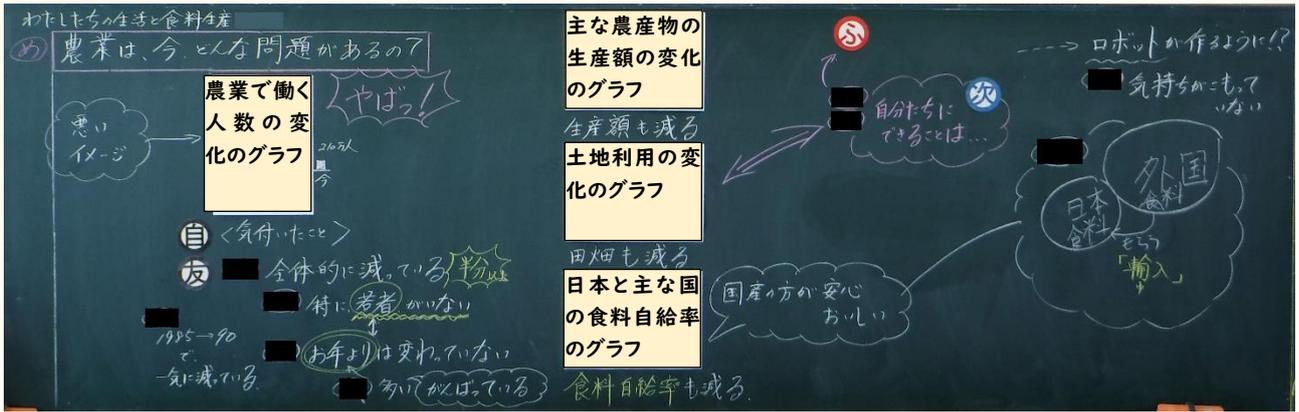
① 身近さに加えて、特に関心や問題意識をもちやすい事象と出合うことで、子どもたちは自然と学習問題を見いだしていきます。ここで子どもたちの心が動けば、後の調べたり考えたりする過程は子ども自ら走りきることができます。例えば、現代的な課題や未来への展望について、一般的な教科書の構成では単元の終盤で触れることが多いですが、先の例のように**動機付け**として取り入れることもできます。

単元の導入について、私は〈**疑問型**〉〈**憧れ型**〉〈**危機型**〉の三つに分類し、その中から描くようにしています。

〈**疑問型**〉② 【3年・販売の仕事】「家の人が買い物に行く店を集計したら、スーパーマーケットが圧倒的に多かったのはどうして？」→「スーパーマーケットの工夫を調べて考えよう。」

〈**憧れ型**〉② 【6年・歴史(近世)】「瀬戸内海の島に、信長・秀吉・家康それぞれの朱印状が残っているなんて！」→「3人の取り組みを調べて、瀬戸内海の島が注目されたわけを考えよう。」

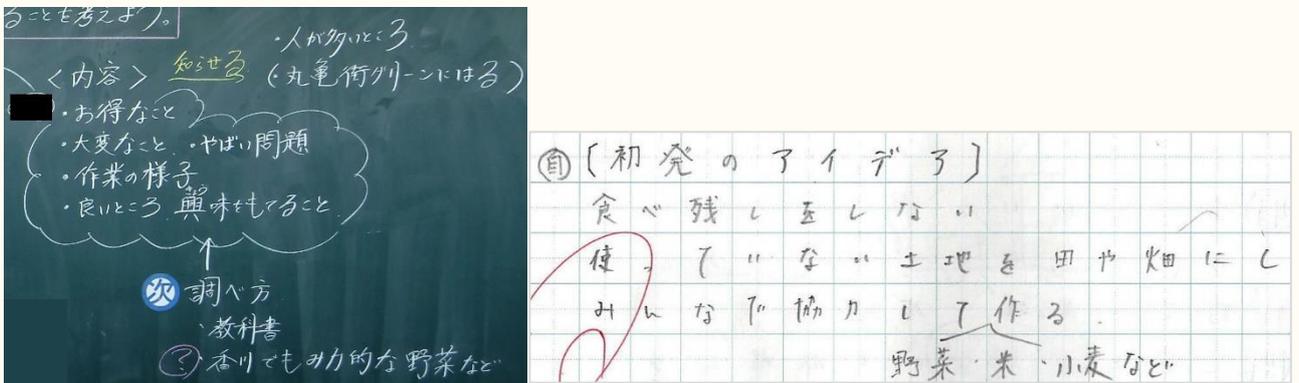
〈**危機型**〉② 【5年・食料生産】「農業の課題をなんとかしなければ今後の食料確保に困る…」→「参考にできる農業の取り組みを調べたり、自分たちにできることを考えたりしよう。」



③ 子どもとともに、学習計画と予想を立てる

ポ 学習問題が定まったら、それを追究・解決するために必要な学習計画（調べる内容や方法、まとめ方など）についても、子どもたちと一緒に立て、**方向付け**を行います。また、計画とともに予想を立てておくことも大切です。その予想を軸として、主体的に調べたり考えたりしやすくなります。また、終盤のまとめの場面で、当初の予想と比較させることで学習成果を実感しやすくなります。

例 【5年・食料生産】工夫した農業の取り組みについて、一般的なことを教科書で調べたり、県内にも事例がないかをインターネットなどで調べたりすることや、多くの人に知ってもらうために調べたことをポスターにまとめて各地に掲示してもらうことを計画しました。また、「初発のアイデア」として、まず自分なりに考えた工夫を書き残しました。



④ 子どもの問いを位置付ける

ポ 問いとは、単元の導入はもちろん、全ての過程において子どもたちの中に生まれるものを含めます。教師が事前に想定し、子どもたちの問題意識が連続するように単元を構成することが大切であるとともに、**子どもからの思いもよらない問いを受けて、柔軟に指導計画を変更することも、ときには必要でしょう。**いずれにしても、子どもたちのつぶやきや振り返りなどを丁寧に見取って位置付けたいものです。

例 【4年・飲料水】浄水場のはたらきについて調べ終えようとした際、市内の浄水場と給水エリアを色分けした資料を見て、ある浄水場の水が海を挟んで島しょ部に届けられていることを見つけた子がいました。そこから、「どうして〇〇浄水場はわざわざ島へも水を送っているのだろうか？」という問いを新たに追究しました（結果、島であっても市の一部として安心・安全な水を安定供給するという事業の意

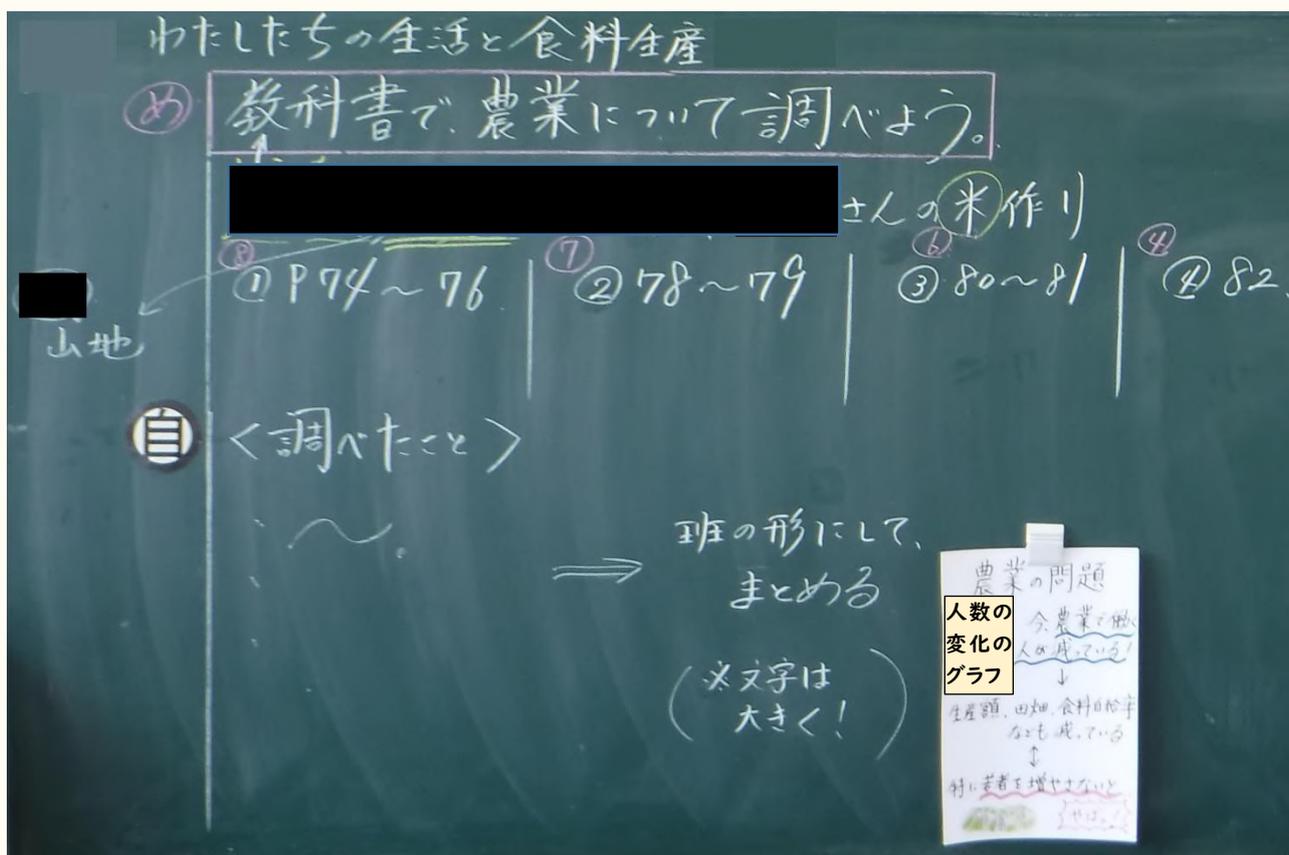
義を理解することにつながりました)。

(2) 調べる過程

①「教える」ではなく「調べる」

① 単元内容を追究する際、教師が説明して教えることももちろんありますが、できるだけ子どもたち一人一人が調べる活動を保障することが大切です。ただし、一任すると收拾がつかなくなるという心配もあるので、せめて**観点や範囲を絞り、その選択権は子どもに委ねる**とよいでしょう。

② 【5年・食料生産】教科書の内容について調べる際、グループで興味のある範囲を選び、後で調べたことを発表し合うようにしました。



② 調べ方も選べるようにする

① 調べる内容とともに、調べ方にも主体性を保障したいものです。昨今であれば、**ICTを効果的に活用**することで、子どもたちの目の色も変わるでしょう。ただし、インターネットはまさに広大な海を渡るイメージで、「わかった気」になって終わることも少なくありません。私は、まずは教科書などの紙媒体のよさを伝え、それで調べてもわからないことを整理したうえでインターネットを使うようにしています(『解説』p.143にも学校図書館やコンピュータなどについての記述あり)。

② 【5年・食料生産】調べ方を子どもたちと考えたところ、「教科書」「図書室」「インターネット」「見学」などが出ました。「先生は、いきなりインターネットは使いたくないんだけど、どうしてか想像できる?」と問いかけることで、それぞれの調べ方の意義を子どもたちなりに整理し、納得していました。

③「本物」に触れる機会を設ける

④ 調べる対象については、一般的な資料や写真、映像などに加えて、**実物や人物**といった「本物」に触れる経験があると、さらに意欲が高まったり理解が深まったりします。内容によっては、匂いや味といった五感を意識することもできるでしょう。

⑤ 【5年・食料生産】地域のアスパラガス農家へ見学に行き、直接話を聞いたり、収穫体験をしたり、その場で試食したりしました。



④ 学習成果を子どもの手柄にする

④ 見学などを取り入れる際、多くの場合は教師が見学の日時を設定して子どもたちに伝えると思います。ここで、少なくとも「**見学がしたい**」という発案は、**子どもたちの中**からわき起こるようにしたいものです。さらに、見学先自体についても子どもたちが調べるなかで見いだせると、それを実現させた成果は子どもたち自身の「**手柄**」になります。もちろん、その対象と出会いやすい状況は教師がつくりませんが（インターネット検索で見学先がヒットしそうなキーワードを伝えるなど）、あくまで見学の主体も子どもたちです。

⑤ 【5年・食料生産】インターネットで地域の農家を調べた子をきっかけに、見学をしてもよいか子どもたち自身が管理職に相談に行き、さらに見学先へも電話をかけました（事前に教師が、管理職や見学先に内諾をとったうえで、知らない体裁で接してもらいました）。

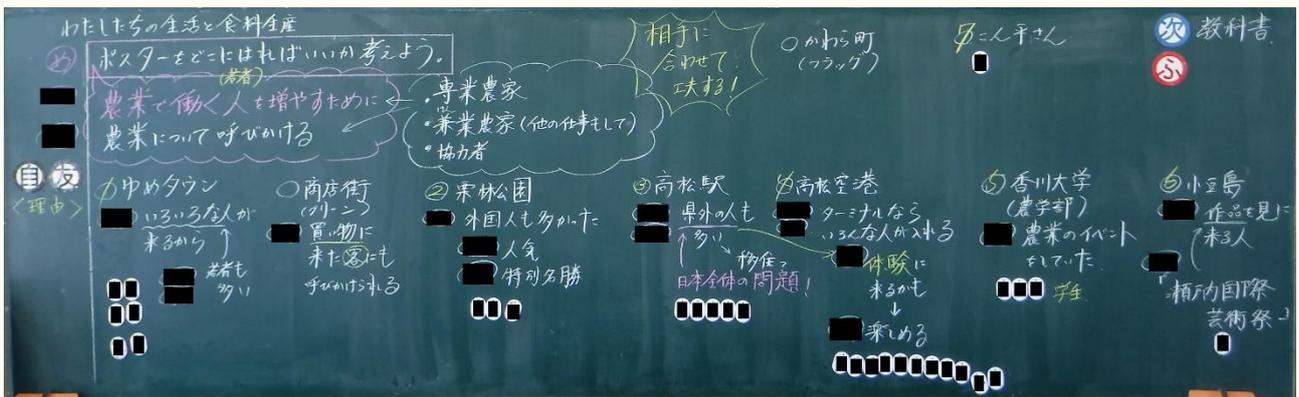


(3) 考える過程

① 自分の立場を表明させる

ポ 調べたことをもとに話し合う際、「どちらがよいか」「自分だったらどうするか」といった**選択・判断を迫る**内容の場合は、名前を書いた磁石などで、まず立場を表明させると、全員が授業に参加する雰囲気が高まったり、それぞれの立場を参考に意見の付け足しや質問を行いやすくなったりします。

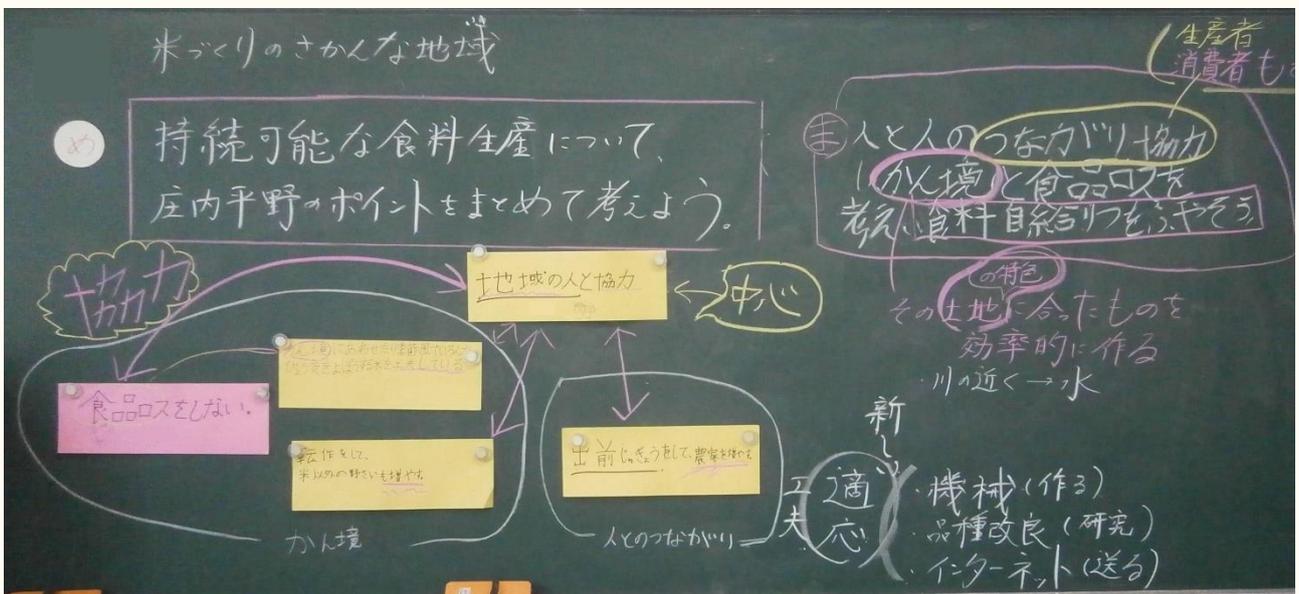
例 【5年・食料生産】調べたことをまとめるポスターを、どんな場所に掲示してもらおうか決める際、さまざまな候補の中から自分が一番ふさわしいと思う場所に名前磁石を貼らせました。この話し合いを通して、それぞれの場所を主に利用する人の特徴が、農業とどのように関係付けられるかを考えることができました。



② 考えを具体的な活動に置き換える

ポ 「なぜなのだろう」「大切なことをまとめよう」といった**知識の概念化を図る**場合は、一人一人の考えをカードなどに表し、それを操作するような活動を取り入れると効果的です。「思考ツール」を関連させられる場合も多くあります。難しくなりがちな話し合いも、具体的な活動に置き換えることで、子どもたちの力でまとめやすくなります。

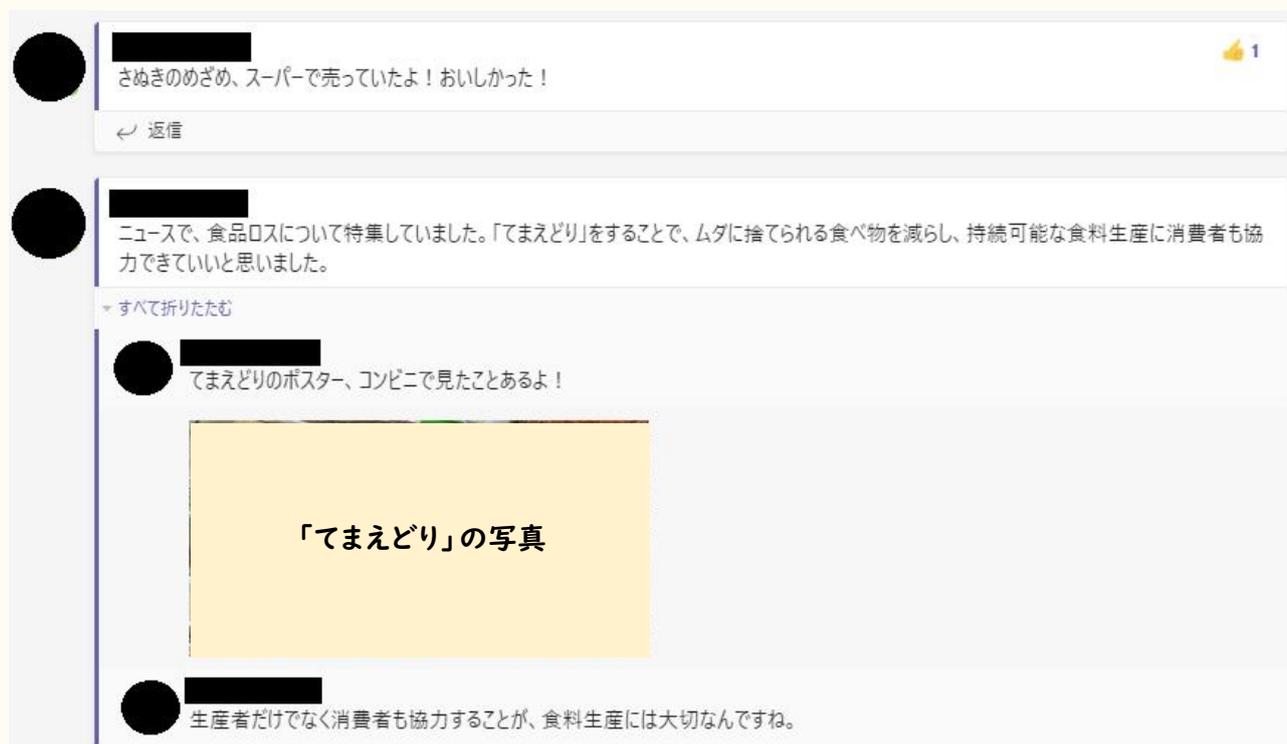
例 【5年・食料生産】調べたことの中から、持続可能な食料生産につながると思う取り組みを選んでカードに書き出し、それをグループで関連付けながらまとめました。



③ 授業以外での深まりをねらう

🍷 社会科の授業以外の時間や、家庭などでも調べたり考えたりする姿は、主体的な追究の理想形といえるでしょう。こうした「業間」を位置付けるために、例えばある子の自主学習ノートを全体で共有する、掲示物を随時更新して学びを可視化する、などの工夫をよく行っています。また、今後 GIGA 端末の持ち帰りが日常化すれば、ここでも ICT を活用することで、さらに「業間」の学びの可能性が広がると思います。

📌 【5年・食料生産】 日常的に見聞きしたことを、GIGA 端末の掲示板プラットフォームに随時書き込むことで、ニュース番組の話をきっかけに、食品ロスについて意見を交わす姿が見られました。



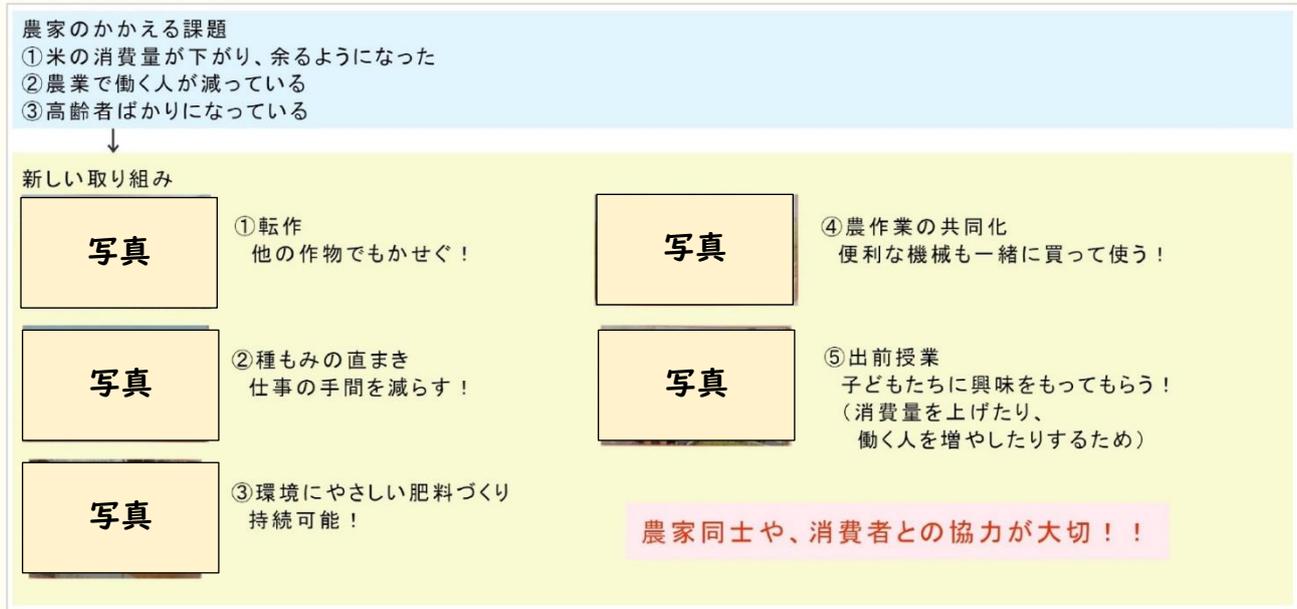
(Microsoft Teams の画面)

(4) 表現やまとめを行う過程

① ICT のよさを生かして表現を工夫する

🍷 ICT は、調べたことを表現したりまとめたりする際にも効果的です。文字や色を編集したり、資料を取り込んだりといった工夫が簡単にでき、子どもたちも主体的に取り組みやすくなります。

📌 【5年・食料生産】 調べてわかったことを、パソコンのプレゼンテーションソフトを使ってまとめ、発表し合いました。



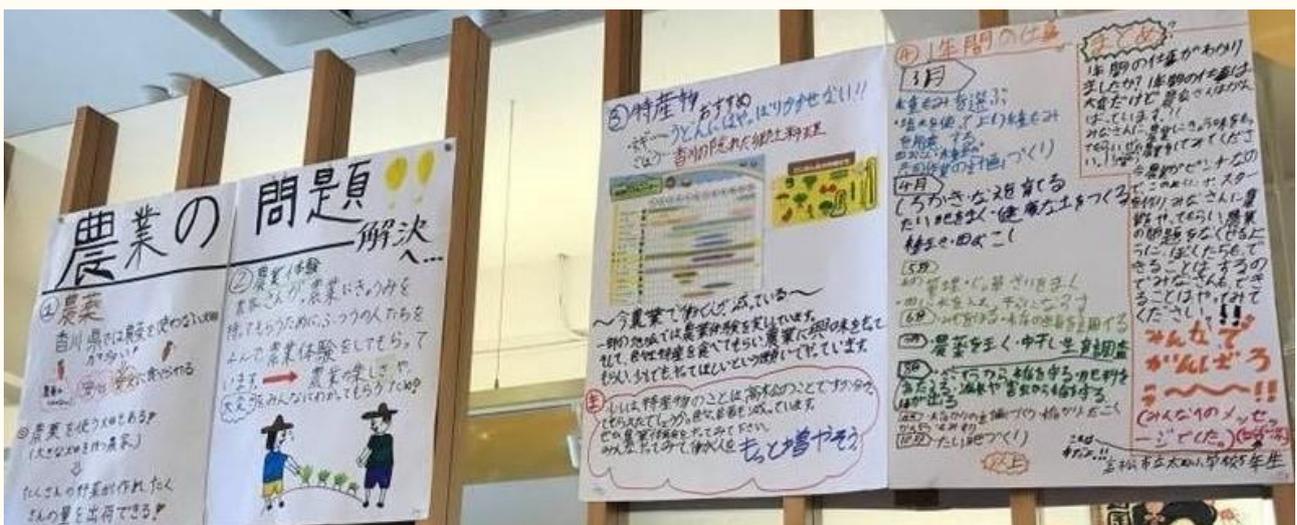
(SKYMENU Cloud の画面)

(5) 学びを生かす過程

① 学習活動を実社会に位置付ける

ポ 単元のゴールとして「新聞作り」といった活動がよく挙げられますが、形式的な活動に陥るのは避けたいものです。単元に応じて、自分たちにできることや世の中への提案を選択・判断したり、それらを**実社会に発信したり**（家の人などでもじゅうぶん）できれば、学びは本当の意味で生きたものになり、成功体験や、社会の一員としての自覚も深まります。

例 【5年・食料生産】学んだことの中から特に大切だと思うことを選び、グループでポスターにまとめ、店や公共施設などに掲示してもらいました。



「対話的で深い学び」や他教科等への発展

最後に、「主体的な学び」とは「対話的な学び」「深い学び」とともに、まさに三位一体となって実現していくものです。また、「問題解決的な学習」や「子ども主体」といった点は、社会科に限らず、あらゆる教科等や学級経営でも大切な要素であることは、いうまでもないでしょう。

本稿を手がかりに、一人でも多くの先生方がより広がり・深みのある実践につなげてくださること、一人でも多くの子どもが「主体」となって学び続ける授業が生まれることを願います。

(2022年1月執筆)